

車掌2人で「区間こだま」は大丈夫か？

その1

今回の新幹線車内業務の見直し提案では、「区間こだま」は車掌の基準乗り組み数が現在の3名から2名と変更になっています。車内の秩序維持、旅客サービス、さらには最も重要な安全の確保は保たれるのでしょうか？

車掌長（列車長）の負担が大きいです！

- ★現状でも車掌長（列車長）は駅発着時の列車監視、グリーン車旅客の対応で精一杯ではないでしょうか？
- ★中乗り車掌がいなくなり下り列車で1号車まで巡回に行くとすると、何もなくても往復するだけで次駅に着いてしまいます。
- ★そういう状況の中でいろいろな事象が車内では発生します。
- ★列車が緊急停止する非常ブザーや車両故障は対応できますが、便所ブザー扱い、急病人対応、車内トラブル発生時には基本的に列車の走行中に対応しなければなりません。

発生する事象内容によっては列車監視に戻れない

「列車監視最優先」はどうするの？

車掌の2人乗務では、様々な事象内容によって列車監視に戻れない場合に会社は、「指令に連絡のうえ、後部車掌と駅員で列車監視をする」と言っていますが、ホーム上の安全確認は車掌2人の目から1人の目に減り、安全性の低下はまぬがれません。

現在は、車椅子などがあつた時は列車監視が終わってから対応しなさいとなっており、すべてに列車監視が最優先になっています。会社は、列車監視の取扱いは都合のいいように変更しているのではないのでしょうか？

私たちはすべての乗務員・お客様のためにも

新幹線車内業務の見直し」に反対します。